

# 懐古の巨木・古木の紹介

久保 勲

私たちの先人は、山の森からの自然の恵みを敬いながら山と親しみ、山の神を祀って山の神を恐れあがめ、山の森とともに暮らしていました。しかし、私たちは、豊かな近代的な生活をする時代になって、地球環境の破壊が何の疑問もなく進行しています。こうした環境課題の一つとして「森林」の見直しが叫ばれるなかで、平成4年度に『みどりいむ'92』が開催され、住民参加の公募によつ

て後世に残すべき「十勝の名木百選」が行われました。初年度は165点、2年度目の平成5年に60点の推薦があり選出されました。

歴史の移り変わりを年齢に刻まれた巨木、人々に慈しまれた古木、学術的に貴重な樹木。

住居の周りや神社・学校に存在し、その1本1本が開拓の歴史を…、人間の営みをじっと見続けてきている貴重な証人であります。

浦幌は、鎮守の森や古い屋敷林が無い町であるが、こうした懐古する古木の数々は、昭和46年(1971)に調査した資料によると、明治16年に入植した十勝太の開拓先人西田氏墓地の樹齢100年位のカラマツ、養老神社の推定樹齢200年以上の欅、旧浦幌小・総合スポーツセンターの推定樹齢200以上のヤチダモ、平和の河合好治宅横の推定樹齢200年以上の柏林、厚内(国道38号沿い)の山の神の祀ってある推定樹齢300年以上の欅、常室郵便局東の推定樹齢300年以上の欅等が今なお現存しています。

しかし、当時の調査で確認された旧上常室小校庭の樹齢100年以上のカラマツ、養老の旧岩井章宅裏の樹齢90年以上のサンナシは、歳月の流れる今日、力尽きて枯死・伐採され、消滅していくことは淋しく感じられます。

反面、平成4年度に上厚内において、学術的に貴重なケショウヤナギ(胸高径85cm)が発見され、さらに新しく「北海道の巨樹・名木」に浦幌道有林管理センター“留真散策の森カツラ”推定樹齢200年以上が選定されました。その中から、今回「十勝の名木百選」と「北海道巨樹・名木」に選定された浦幌の巨木・名木等を紹介します。

(浦幌地区林業指導事務所長)



Fig. 位置図

## 目 次

懐古の巨木・古木の紹介	久保 勲	2
文化財保護周知標識	田子利隆	6

写真説明：浦幌村二才馬せり市場と出場馬

**カツラ（桂）「留真散策の森 カツラ」 カツラ科**

浦幌町の市街から16.8kmの静かな山渓に、春の樹々の芽生え、夏の深緑が川面に映え、秋の紅葉が素晴らしいブアンデンベルグの森が、ラポロ留真温泉宿を包むように広がっています。この森は桂・楡・櫛等の大木が群がっている樹海で、枝の擦り合う“ささやき”と野鳥の“さえずり”が響き渡り、四季を通じて自然を満喫することができ、約2.5kmの整備された散策道は、ウォッキングやトランкиング等に適しています。その入り口留真川溪流の上に、この雄々しさの樹齢200年以上と推定される“桂の大木”が、訪れる人々をあたたかく迎えてくれます。

神話に「カツラの赤い木の芽が春風に飛ばされ、ハルニレ（楡）「常室のゴロスケニレ」 ニレ科

常室郵便局裏に、樹齢300年以上と推定される楡の大木2本仲良く並んでそびえています。この楡の木は、明治30年（1897）の開拓の頃に、楡・櫛等の巨木におおわれていたが、その後伐採され旧神社跡に残ったもので、昭和10年頃から馬頭観世音堂が祀られ、昔から常室小学校の子どもたちや地



PL1. 「留真散策の森」カツラ

（高さ 25 m 幹周 790 cm 樹齢 200 年以上）

**学名；*Cercidiphyllum japonicum* Sied. et Zucc.**

水たまりに落ちて魚（カジカ＝鰐）となった…」とあります。カツラには、雄の木と雌の木があり、雪どけ頃、葉が開く前に“真っ赤に咲く”的が雄花です。また、芽の色が紅（ヒガツラ）と緑の（アオガツラ）の二種類があり、葉がハート形であることもあって…、昔から『縁結び』とかで…ロマンのある木です。

こんなものもあってか、留真温泉宿の女将さんは、このカツラの向かいにもう1本の桂が温泉宿を夾んで東側斜面にそびえている森の桂を雄、こちらを雌桂として「夫婦桂」と呼ばれ、昔から“子宝温泉”と云われている…とお話ししていました。

**学名；*Ulmus davidina var. japonica* Nakai**

域の住民に親しまれて、地域の守り神と崇められていました。何時の頃からか「フクロウ」が住み、子どもを育てた時から「ゴロスケニレ」と呼ばれていたそうです。

アイヌ神話では、雷が高く美しい女神ハルニレに落ちて、祖先アイヌラックルが誕生し、自分の皮（樹皮）を着せて育てた…と云われています。それだけ楡の木は、大木になるため雷が落ち易く、アイヌ語でチキサニ「火をこすりだす木」と呼ばれ、神の中でも最高位の“火の神様”的なため、山の神を祀っている所が多く見られます。



PL2. 「常室のゴロスケニレ」ハルニレ

（高さ 23 m 幹周 510 cm 樹齢 300 年以上）

## ケショウヤナギ（化粧柳） ヤナギ科

平成4年6月27日に、上士幌町ひがし大雪博物館の川辺百樹氏が発見した浦幌のケショウヤナギ2本は、上厚内市街近くの真田氏住宅の手前、厚内小学校の上流に向けた2km地点で、いずれも厚内川岸で確認されました。これは、これまでの東限から約30km離れており、自生東限を大きく更新される学術的ジャンルとして大変に貴重なものです。

わが国では、長野の上高地、北海道日高山脈以東の日高幌別川網走の諸滑川や十勝の戸鳥川・札内川支流に多く群生し、他に十勝の大正を流れるヌップ川沿いや川西から稻田への機関庫の川沿い、拓成湖等の限られた地域にしか自生していません。

学名：*Chosenia arbutifolia* A.Skvortz

ケショウヤナギは、春先紅色に染まった若い枝に白い粉を吹くようすが、白粉を付け化粧している娘さんのように見えることから、「化粧柳」と呼ばれるようになったようです。

樹高20m、胸高径60cm（幹周188cm）位になり、日の良く当たる河川地にみられます。分布は、北海道長野県の他、サハリン・朝鮮半島・オホーツク海沿岸地方にみられます。



PL3. ケショウヤナギ（高さ 21 m 幹周 267 cm 樹齢 30 年生）



PL4. カシワの原始林（平和・河合宅横）  
(高さ 28 m、幹周 292 cm、樹齢 200 年以上)



PL5. 榆の木（厚内・国道 38 号沿い）  
(高さ 26 m、幹周 620 cm、樹齢 300 年以上)



PL6. ヤチダモ（旧浦幌小学校跡）  
(高さ 7.5 m、幹周 279 cm、樹齢 200 年以上)



PL7. カラマツ（十勝太・先人西田氏墓地）  
(高さ 20 m、幹周 248 cm、樹齢 100 年以上)



PL8. 榆の木（養老神社）  
(高さ 27 m、幹周 112 cm、樹齢 200 年以上)